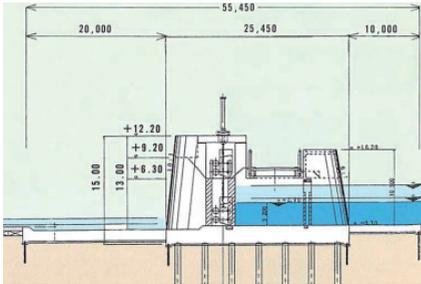


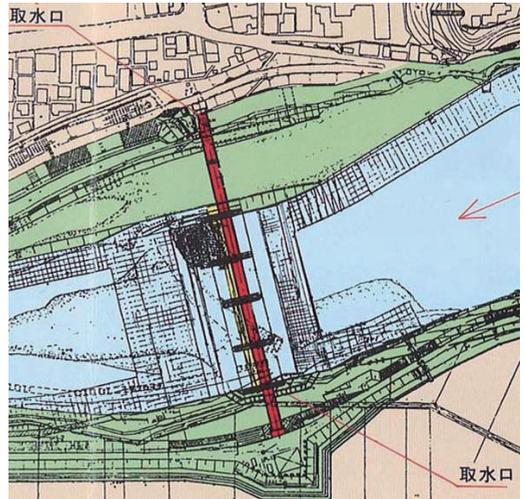
高知県宿毛市の松田川の河口にかかる江戸期の野中兼山築造による歴史的な河戸堰に替わる新たな可動堰と管理橋の景観設計、篠原修東京大学土木工学科教授(当時)とともに関与した。デザインは篠原氏の指導を受け、中野のもとで中井祐(現東京大学土木工学科教授)が担当、日本建設コンサルタント(現・いであ)と清水建設景観グループ(畑山義人氏他一当時)の技術サポートによって当初設計(スライドゲート頂部に疑似和風管理室が並ぶ)の見直し案を作成し、現場段階での監理等にも関わってきた。その後、中井が東京大学に移り、周辺公園計画も含め完成まで関与した。



江戸期の取水口石構(中野が現場立会いで変更協議の結果、保存が実現した経緯がある)



可動堰と管理橋断面図



可動堰と管理橋平面図、右岸側の濃い部分は保存された江戸期の石組遺構



右岸側から見た管理橋と可動堰



完成から20年近く経過した可動堰と管理橋、年数を経てコンクリート製堰柱は苔や黴で黒くなり、現地の風景に溶け込んでいるようにも見える

諸元 所在地: 高知県宿毛市中央、和田 事業主体: 高知県宿毛土木事務所 竣工 2004年10月(着工1994年)、可動堰: 全長106.2m、径間長24.0m×4門、扉高3.2m(1.00+2.20) ゲート構造-シェル構造ローラーゲート2門、シェル構造フラップ付ローラーゲート2門(油圧リフト式) 管理橋: 単純ワーレントラス橋+2径間連続ワーレントラス橋(下路式ボートラス) 支間長28.5m、27.1m、27.4m、32.9m+33.0m 有効幅員5.5m 全幅員6.3m 設計: 日本建設コンサルタント(現・いであ) 景観設計: アブル総合計画事務所+清水建設景観デザイングループ 実施設計: アブル総合計画事務所 アドバイザー: 篠原修/担当: 中野、重山、浦岡、中井、岩村、熊耳、星野